

## あとがき

本文中に書かせていただいた老中医たち以外にも、多くの先人たちからたくさんのごことを学ばせていただき、幸せな人生であったと感謝しています。外科医から中国医学を専門とする立場に変えるにあたり、家内や家族にも大きなバックアップをしていただき同じく感謝に堪えません。

近年は特になんがんをはじめとする難治性疾患の治療にその重点を置き、いまだ不十分なながら、それなりの効果を上げることができていると感じています。がんの種類別に解毒系生薬と温裏薬を配慮することは必要なことで、本書ではその一端をお示しすることができたと思っています。

ただ、生薬の市場価格が非常に高騰してきており、もっと国内生産を増やす方途を取っていかなければ、今後、生薬での治療は困難になるばかりと思われまふ。縁ある若い方たちが大分県や茨城県で漢方生薬の栽培に成功しており、今後いっそうこういう動きが増えていくことを期待したいと思っています。

2015年1月

著者